

概要編

流域圏における地域特性

①勝浦川流域圏とは・・・
小松島市・勝浦町・上勝町の1市2町

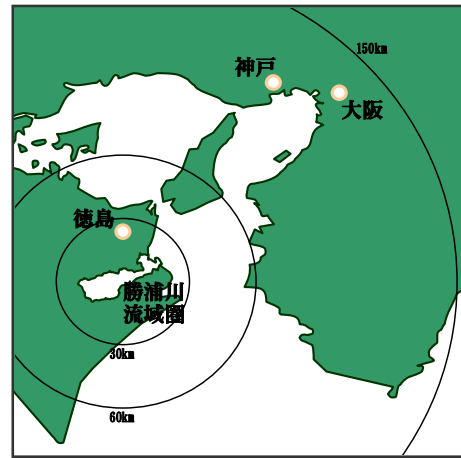
②流域圏全体における地域特性

- 恵まれた自然環境
- 流域の一体性・コンパクト性
- 地域資源の多様性
- 県都及び大都市圏への良好なアクセス性
- 充実した医療機関

◆勝浦川流域圏地図◆



◆広域地図◆



③市町単位でみる地域シーズ

小松島市	勝浦町	上勝町
新赤十字病院など都市機能、高度医療機能を活かすまちづくり	病院、専門学校、ふれあいの里などを活かす福祉と交流のまちづくり	彩事業やごみゼロ宣言に続く21世紀先進的自治体としてのまちづくり
◆日赤病院周辺活性化策検討 (再開発事業、商工会議所ほか) 「中心市街地活性化計画」を受けケーブルTVなどが起動している。	◆「愛育班」活動 (町の保健事業企画への参画、実施補助) 町内に15の愛育班があり、地区住民の健康増進に取り組む。	◆5つの第三セクター いずれも、地域資源・条件に根ざした三セクで全て黒字経営である。
◆安全食品供給都市構想、身土不二屋 自然農に目覚め、独力で拠点づくり、普及に努める。	◆さかもとグリーンツーリズム運営委員会 (ふれあいの里 さかもと) 旧小学校舎を有効活用して農村体験宿泊事業に取り組む。	◆徳島大学総合科学部の地域連携プロジェクト 健康づくり運動教室の事前・事後の測定、健康診断等を支援している。
◆産直市 (小松島漁協直営マリンショップ、よしつねふれあい市) 地産地消への足がかり	◆阿波勝浦井戸端塾 「ビッグひな祭り」ほか、交流のまちづくりの企画・実働部隊。	◆ごみゼロ宣言及び行動宣言、ゴミ回収ボランティア ゴミ34分別徹底等をベースにH.32までに「ごみゼロ」をめざす。
	◆産直市 (よってネ市) 地産地消への足がかり	◆産直市 (いっきゅう茶屋) 地産地消への足がかり
	◆商工会ご用聞き、買い物代行事業 お年寄りへの宅配	◆有償ボランティア輸送特区 公共交通の不便さを住民が補う
		◆「まるごとエコツアー」特区

流域圏の広域的地域振興方向

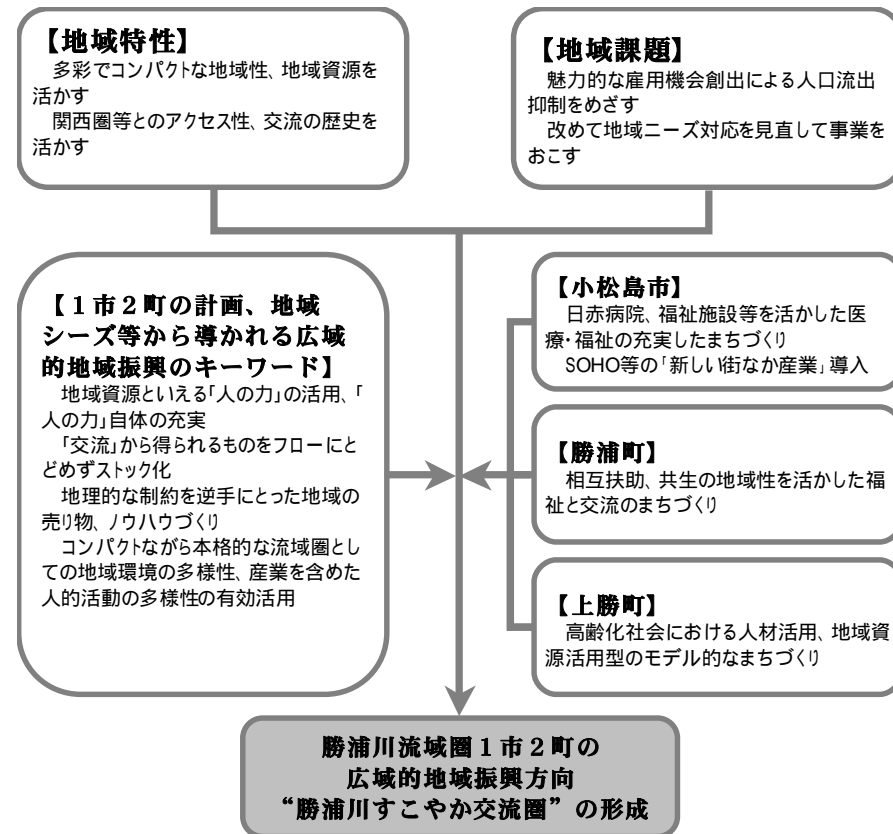
①地域が抱える基本的課題

- 人口流出
安全安心な定住化のための生活環境の創出 / 人材誘致環境の整備
- 産業低迷
地域特性及び資源を活かした新たな事業・産業の育成 / 企業誘致
- 中年層以下の健康悪化と高齢化
自立化を促進する地域社会システムの形成と住民の健康増進
- 自然環境の維持・活用体制が未整備
流域の連携体制づくり

②広域的地域振興方向～勝浦川すこやか交流圏の形成～

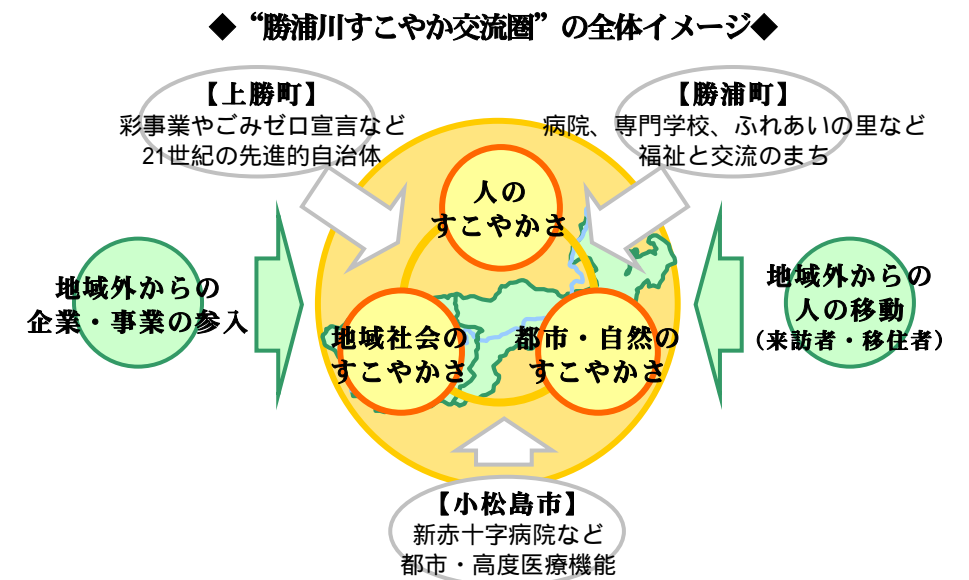
多彩な自然資源・活動資源を活用して、心身のすこやかさを実感できる流域地域(すこやか交流圏)とすべく、定住環境向上を図るとともに、地域内で心身のすこやかさに寄与する事業・産業をおこす、あるいは、関西圏等の地域外から人、事業・企業等を誘導していく。

◆勝浦川流域地域1市2町の広域的地域振興方向抽出フロー◆



“すこやか流域圏”の全体イメージ

“すこやか交流圏”の形成とは、多彩な自然資源・活動資源を活用して、地域内外の人々が交流を深めることにより、地域としてのすこやかさが高まり、人々が心身のすこやかさを実感できる流域地域としていくことである。
“勝浦川すこやか交流圏”では、“人のすこやかさ”、“都市・自然のすこやかさ”、“地域社会のすこやかさ”という3つのすこやかさの高まり・充実をめざす。



実現に向けた課題と解決への取り組み方向

①地域が抱える基本的課題

◆すこやかさの視点からの
地域事業・産業おこし
それぞれの地域資源を活かした取り組みはあるものの、単発的な事業のため、流域圏におけるスケール感には欠けている。
流域圏内の“産業人”は自信喪失傾向にあり、特に、旧来基幹的位置づけにあった業種・業態では、事業スケールが縮小し、事業実行速度も鈍化している。

◆すこやか交流圏形成に共鳴する
人や事業・産業の誘導
流域としての地域イメージが不明確で、1市2町による情報発信、PRが十分に効果を発揮できていない。
人・事業等の受入れ基盤が不十分である。

◆すこやかさの視点からの
定住環境、社会的基盤充実
山・川の自然環境には恵まれているが、一般の人々が気軽に野外活動・体験を行うための場・機会づくりには充実の余地がある。
医療機関・福祉施設の充足度は高いが、健康増進・維持のための施設(スポーツ・レク施設等)が不足気味である。

◆住民の健康づくり活動の充実
健康づくりに関する主な取り組みは自治体を中心に実施されているが、連携は図られていない。
健康づくりにおいては、現在の取り組みでは健康状態の回復後、それを維持・継続する部分が不十分である。

②課題解決への取り組み方向

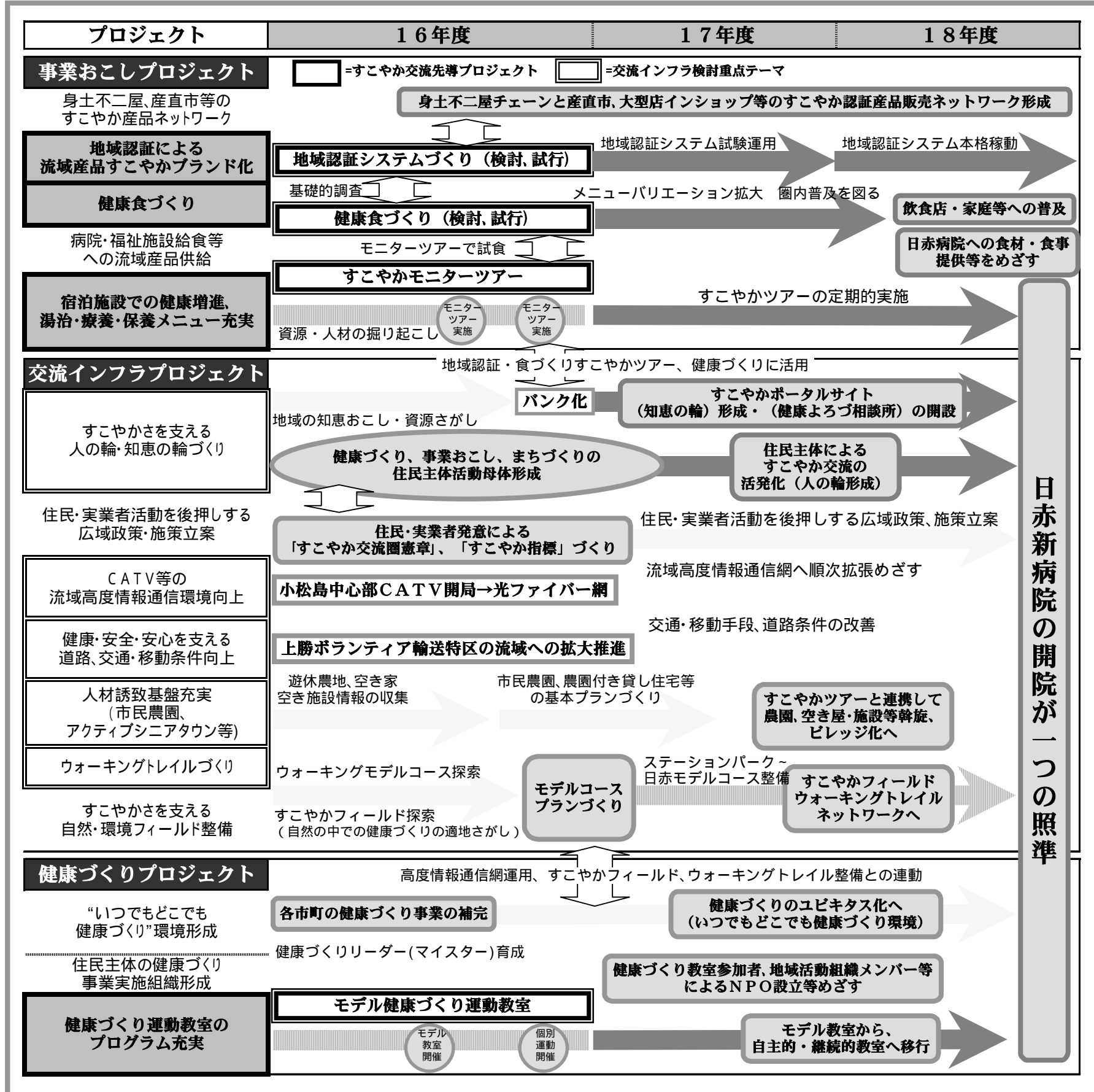
◆すこやかさの視点からの
地域事業・産業おこし
“地産地消”を切り口として、小さくとも新たな事業の動きを立ち上げることで、流域圏内の一体感と産業人に対する自信回復を目指す。
全国に対してもアピール性を持つ個別の取り組みを地域の取り組みへと拡大・発展させる。

◆すこやか交流圏形成に共鳴する
人や事業・産業の誘導
勝浦川流域としての広域的な地域イメージの鮮明化と情報発信を進める。
人・事業等の受入れ基盤・体制の充実を図る。

◆すこやかさの視点からの
定住環境、社会的基盤充実
一般の人々も気軽に自然とふれあえる場・機会の整備・充実を図る。
中山間地域の生活・就業上の制約・不利を補う社会基盤の充実を図る。

◆住民の健康づくり活動の充実
市、町、住民組織あるいは外部協力機関(徳島大学等)などによって現在行われている健康づくりの取り組みを一層充実させていく。

プロジェクトの全体体系と実施スケジュール



すこやか交流先導プロジェクト等の実施と課題の整理、必要とされる取り組み

① すこやか事業おこしプロジェクト

◆事業のねらい～流域圏にある地域資源を活かして“知・産・地・生”活動を推進する～

「すこやか事業おこし」のねらいは、右図にある通り、“勝浦川流域的”地産地消活動(=これを“(1)知・産・地・生”活動と呼ぶ)の展開を切り口として、地域内の「ヒト・コト・モノ」の動きを活発化させ、それによる様々な波及効果を生み出すことにある。前述の通り、下記3つの先導プロジェクトについて、本調査において調査・試行・検討を行った。

- 地域認証システムによる流域産品すこやかブランド化(地域認証システムの構築)
- すこやか食づくり
- すこやか体験・滞在事業おこし

◆試行の実施概要～すこやかモニターツアー(上勝町・勝浦町)～

本調査において、「すこやか食づくり」「すこやか体験・滞在事業おこし」に係る試行を行った。これは、既存の観光への取り組み(上勝町の“まるごとエコツアー特区”や勝浦町・阪本グリーンツーリズム運営委員会の活動等)を踏まえ、上勝町・勝浦町において1泊2日のモニターツアーというカタチで実施したものである。概要は下記の通りである。

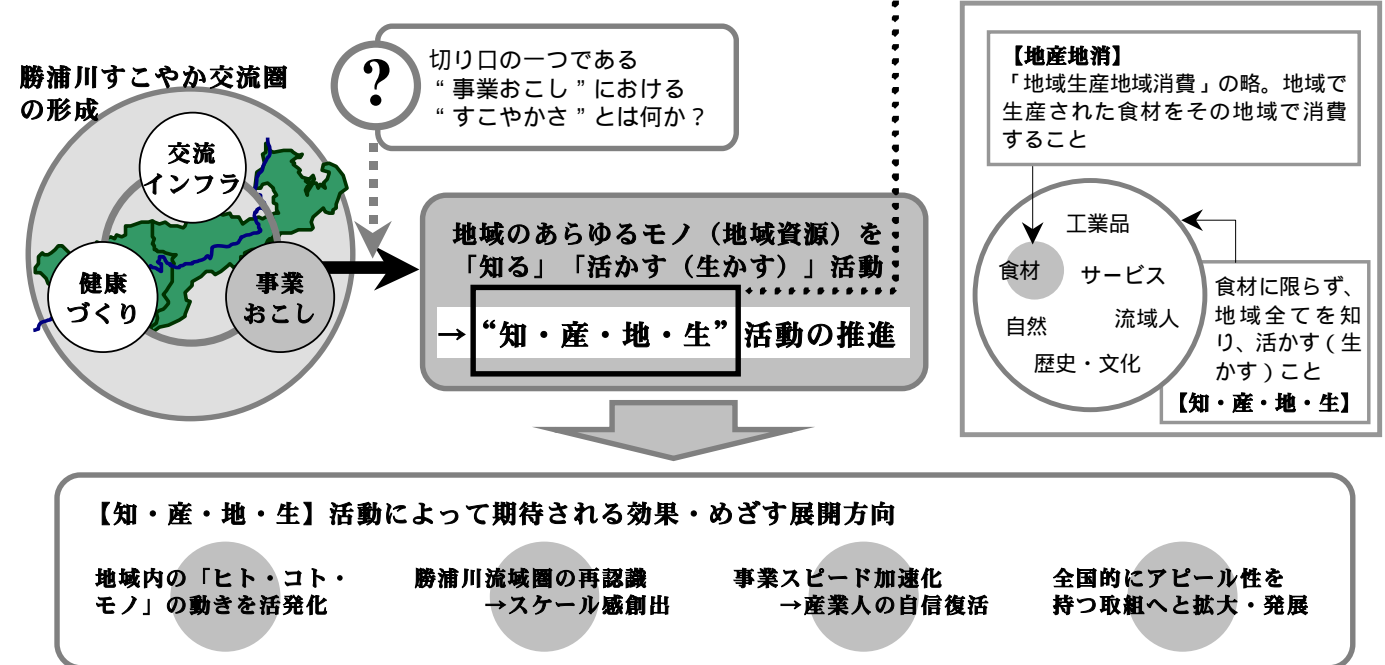
【すこやかモニターツアー実施概要(上勝町)】

実施日：2004年11月04日～05日
 ツアー内容：「シイタケ狩り(@上勝バイオ工場)」「い
 ろどり見学」「棚田見学」「高丸山登山」など

【すこやかモニターツアー実施概要(勝浦町)】

実施日：2004年11月26日～27日
 ツアー内容：「体験(炭、こんにやく、田舎豆腐)」「七
 社七鳥居参り」「みかんのふる里散策」等

◆事業おこしのねらいと期待される効果◆



◆「地域認証システムの構築」の課題と、必要とされる取り組み

今回の調査の中で、地域内のキーマン、関係者へのヒアリング、住民アンケート調査、関連制度・システム調査、既存拠点施設調査などを行い、次に示すような課題を整理した。

【“地域認証システム構築”に向けたモニター販売以前に整理すべき課題】

- コア(母体)がない、しかし、担い手は存在する。母体形成の必要性あり
- 段階的取り組みが必要。初動段階においては参画者・理解者を募ること
- 既存の認証制度を利用する。しかし、生産者負担軽減のための支援が必要
- 消費者の中に地産地消の意識、やや薄い。しかし、潜在している
- 情報発信活動の必要性。消費者だけでなく生産者にも大きな効果あり
- 【知・産・地・生】活動 = 地域内でモノを循環させる仕組みの必要性
- 環境をどのように打ち出すかの検討が必要

このような調査、活動の結果、今年度は“モニター販売”を実施するには到らなかったが、章で示すような、地域認証システム構築に向けて地域で取り組むべき具体的な対応方向は、以下のように考えられる。

【“地域認証システム構築”に向けて、必要とされる活動】

- 点在するキーマン(キースポット)のネットワーク化と活動母体づくり
- 産直市等をステージとした、認証に到る段階的・試験的取り組み
- 産品自体の差別化のための機能性、優位性等の分析・研究(大学等との連携)
- 産地としての差別化のための農業生産・経営技術高度化と新たな担い手養成(大学等との連携)
- 情報インフラを活用した電子ネットワーク化の可能性検討

◆「すこやかツアー」「すこやか食づくり」の課題と、必要とされる取り組み

前述の通り、11月上旬～下旬にかけて上勝町・勝浦町をステージとして実施した1泊2日のモニターツアーやヒアリング調査、ワーキング検討を受け、次に示すような課題を整理した。

【“地域認証システム構築”に向けたモニター販売以前に整理すべき課題】

- “人”資源に大きく依存する。どのようにして顧客を掴むか～ターゲットは大口ではなく準団体・個人需要～
- 個々での魅力創出
- (上勝町)“食”に感動と郷土色を、視察と観光のミックス
- (勝浦町)体験メニューの高度化・安全確保、“食”とのコラボレーション、遍路客の取り込み
- 流域圏という広がりの中で実現し得る観光の“色(イメージ)”づけ
- 情報発信の必要性
- 地域間を行き来できる交通基盤の充実

モニターツアーやヒアリング調査等の活動の結果、「すこやかツアー」「すこやか食づくり」において、今後、地域で取り組むべき具体的な対応方向は、以下のように考えられる。

【“すこやかツアー”プログラムづくりに向けて、必要とされる活動】

- 観光エリア間でのネットワーク構築、まずはエリアごとに～それぞれのポテンシャルを高める～
- 人材育成を進め、より観光客を満足させるサービスを供給していく
- リピーターを流域圏で獲得する工夫～“この地域を味わう”という発想、“パスポート”という手法～
- “すこやか”の打ち出しどころの検討
- 情報発信～点の発信ではなく、面の発信という視点～

② すこやか健康づくりプロジェクト

◆ “すこやか健康づくり” 先導プロジェクトの狙いと実施方針

健康づくりのユビキタス環境の実現していくためには、まず住民の健康づくりに対する意識向上を図り、住民による自主的な健康づくり活動が促進される状況をつくりだしていくことが重要といえる。そこで、先導プロジェクトでは、こうした住民の健康づくりに対する意識向上を促進するため、以下の取り組みを実施する。

徳島大学応用生理学研究室が有する専門的、科学的ノウハウを生かした『モデル健康づくり教室』の開催
教室開催後にビデオ配信による在宅での運動を継続
健康づくり教室等での成果の公表、流域圏での健康に対する意識向上

◆ “すこやか健康づくり” 先導プロジェクトの実施体制

すこやか健康づくり先導プロジェクトとしては、(株)開発計画研究所を事務局として、健康づくりワーキングに参加する徳島大学応用生理学研究室、小松島市、勝浦町、上勝町の保健担当者との連携により実施した。

◆ モデル健康づくり教室の開催概要

『勝浦教室』、『上勝教室』を開催、それぞれに午前コース、午後コースを設置

教室での運動プログラム

約 10 分間のストレッチング後、ゴムチューブ・軽量ダンベルを使ってのアームカール、サイドレイズ、バックレイズ、ランジ、パタフライ、フレンチプレス、スクワットなどの運動、椅座位姿勢での足関節底屈運動、脚伸展運動等をそれぞれ約 20 分間、サーキットトレーニング形式で実施

参加者同士のコミュニケーションの向上ために、ボールなどを使ったレクリエーションも実施

教室の開催期間

コースごとに平成 16 年 8 月 17 日(火)～11 月 16 日(金)の 3 ヶ月間、毎週火曜日と金曜日に開催

各コース、26 回ずつ開催(両教室を合わせ計 49 名が参加)

◆ 測定概要

健康づくり教室の開催当初と終了後に、体力を評価するための全身持久力、筋力、生活体力テスト、健康状態を評価するための血圧、脈派伝播速度等を測定

質問紙を用いて、日常生活調査、および抑うつ度調査などを評価

3 ヶ月間、週 2 回継続した健康づくり教室での運動が体力・健康面にどの程度の影響を与えたかを分析

◆ ビデオ配信による家庭での運動の継続と測定概要

健康づくり教室参加者のうち 26 名を対象として、自宅での運動継続を実施

1 回当たり 10 分間で構成されている運動プログラム 6 回分を収録したビデオテープを 1 月に 1 本配布し、平成 16 年 12 月～平成 17 年 2 月にかけての 2 ヶ月間、家庭での運動を実施

運動プログラムは、ゴムチューブ、軽量ダンベル、椅子を使っての簡易な運動をサーキットトレーニング形式で実施

終了後に健康づくり教室と同様の測定を実施

モデル健康づくり教室及びビデオ配信による在宅運動の成果

	測定項目	教室開催後の効果
健康づくり教室	握力・背筋力・VT(換気性作業閾値)	明らかに改善された
	生活体力 (起居能力、歩行能力、手腕作業能力、身辺作業能力)	明らかに改善された
	SBP(上腕収縮期血圧) DBP(拡張期血圧) ABI(上腕血圧の比)	教室開催前でも参加者は正常範囲であったが、降圧効果が認められた
	baPWV(脈派伝播速度)	軽度の動脈硬化状態にあった参加者は柔軟性の向上が認められた
	精神的機能(抑うつ度)	教室開催前でも参加者は正常範囲であったが、さらに抑うつ度の低下効果が認められた
	社会的機能(テレビ時間、趣味や稽古事、運動・スポーツ、散歩・体操、外出、知人・友人とのつきあい)	テレビ時間の減少、趣味や運動、外出等をよく実施する人の割合向上など、生活が活動的になったことが認められた
ビデオ配信による在宅運動	握力・背筋力・VT(換気性作業閾値)	運動教室前のレベルに戻る傾向が見られるが、教室での運動効果が持続されることが確認された
	生活体力 (起居能力、歩行能力、手腕作業能力、身辺作業能力)	運動教室前のレベルに戻る傾向が見られるが、教室での運動効果が持続されることが確認された
	SBP(上腕収縮期血圧) DBP(拡張期血圧) ABI(上腕血圧の比)	教室での運動で改善された状態が持続されることが確認された
	baPWV(脈派伝播速度)	教室での運動で改善された状態が持続されることが確認された
	精神的機能(抑うつ度)	教室での運動で改善された状態が持続されることが確認された
	社会的機能(テレビ時間、趣味や稽古事、運動・スポーツ、散歩・体操、外出、知人・友人とのつきあい)	教室での運動で改善された状態が持続、さらに改善されることが確認された



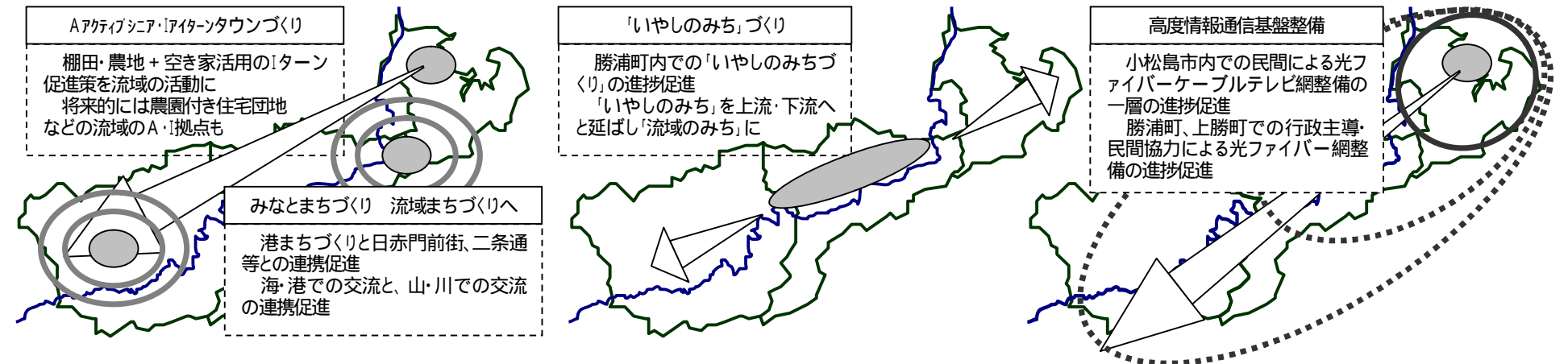
③ すこやか交流インフラプロジェクト

◆ “すこやか交流インフラ” 検討重点テーマ抽出方針

すこやかさをキーワードとする交流により地域を活性化するために地域で共通的に取り組むべき活動・事業を“すこやか交流インフラ”と想定する。したがって、日常生活基盤よりも、交流のきっかけとなる地域内での体験を促し、これを継続的な交流へと発展させ、移住、定住へと導くための地域としての取り組みについて先行的に検討する。

ソフトインフラの一つといえるすこやか交流圏の認知促進に向けた取り組みを図るとともに、機運を高めていくために、“すこやか交流圏”づくりに向けて、既存組織の連携を促す。合わせて、交流インフラの象徴と位置づけられる「いやしのみち」流域ネットワーク、「高度情報通信基盤整備」、「A・Iタウン」の実現に向けた取り組みの進め方を示すこととした。

◆ “すこやか交流インフラ” の整備促進に向けた勝浦川流域地域での取り組みイメージ



インフラタイプ	インフラ検討重点テーマ	検討内容	今後の取り組みを推進する上での課題	取り組みの進め方
広域政策・施策立案 PR、情報発信	“すこやか交流圏”づくりの認知促進、PR	「モデル健康づくり教室」の公募に際して、“すこやか交流圏”構想の概要を知らせた。 住民等へのアンケートを実施し、本報告書検討に活かした。報告書概要の住民啓発用 PR 版を作成し、市町広報に折り込む形で全戸に配布する。	地域の変化をイメージできるよう、すこやか交流の具体的な活動を行いながらPR 広報からマスコミまで効果的に媒体で取り上げられるような活動と発信 情報創造、発信主体の特定	“すこやか交流圏”づくりのこれまでの活動や、今後の活動予定などを、小松島市、勝浦町、上勝町それぞれの広報で紹介。「すこやかツアー」や「健康づくり運動教室」などを開催する場合にも、広報などで参加者募集。 新聞などでも取り上げてもらえるように情報を発信。
人の輪・知恵の輪づくり	“すこやか交流圏”づくりに向けた既存組織の連携促進	住民等による交流促進活動グループ対象の“交流圏”づくりに関するインタビューを行い、“交流圏”づくりの活動への協力を呼びかけた。インタビュー結果を本報告書に反映させた。	すこやか交流の視点での各グループ活動の評価、“すこやか交流”と位置づけることによるインセンティブが必要 既往グループに余計な負担は強い「すこやか交流圏づくり」への参画促進 各グループの活動を踏まえそれぞれのメリットにつながる“すこやか交流”を企画、運営体制、組織づくり	
交通・移動条件向上	「ノー・マイカー流域体験コース」検討	すこやかモニターツアーと連携して、公共交通による1日体験、2日体験コースを検討した。	地区内での訪問箇所が限られ移動頻度の少ない体験コース設定 移動なしあるいは徒歩で対応可能な地区内体験プログラム設定(坂本地区2時間散策、傍示地区1時間散策他) バスと有償ボランティア輸送等地区内移動手段のセット	
ウォーキングトレイル整備	「いやしのみち」流域ネットワーク展開検討	「勝浦町いやしのみちづくり」と連携し、勝浦町内での早期実現に加え、小松島、上勝を加えて流域のみちとすることをめざして検討を行った。	勝浦町内での「いやしのみちづくり」推進 勝浦町内での「いやしのみちづくり」プランの流域での評価、流域のみちへの発展機運づくり 上勝町、小松島市での「いやしのみちづくり」体制、組織づくり	【勝浦町での「いやしのみちづくり」の一層の進捗促進】 歩く楽しさや「いやし」を実感できるみちづくりへの活動発展 勝浦町ワークショップや補修ボランティア等への小松島市、上勝町からの参加促進 【小松島市側への「いやしのみち」延伸】 義経ドリームロードを「いやしのみち」に 港交流センターと日赤新病院をつなぐステーションパークを「いやしのみち」に 小松島市・勝浦町境地区での交流拠点構想とセットで「いやしのみち」検討を 【上勝町側への延伸「いやしのみち」延伸】 勝浦町、上勝町双方の町民による“坂本地区 - 慈眼寺間見所さがしハイク”
CATV等流域高度情報通信環境向上	高度情報通信基盤の整備促進のための取り組み検討	地上デジタル放送の本格化に伴うテレビ視聴条件の改善を検討の出発点としながら、防災面、彩事業他の産業面、在宅健康管理等の保健福祉面、教育・生涯学習面での多用途の利用を想定した光ファイバー等情報通信基盤整備促進のために、04年夏に、勝浦町、上勝町「地域情報化計画」「情報通信基盤整備計画」が策定されており、この計画を促進するための流域としての取り組みについて検討した。	小松島市内でのケーブルテレビの一層の進捗促進 民間によるケーブルテレビ整備等が期待できない、勝浦川中・上流域(勝浦町、上勝町)における高度情報通信環境の充実 町が県・国の協力を得て光ファイバー幹線の基盤を整備 ケーブルテレビの運営については民間の協力を得る	【行政主導・民協力による光ファイバー網の整備促進】 【勝浦川流域としての光ファイバー網の必要性、活用方策の明確な提示】 光ファイバーが「ないから必要」でなく「使いこなしたいから必要」との姿勢重要 行政、民間による“光ファイバー高度利活用研究”推進と住民の利用ニーズ喚起
人材誘致基盤充実	「A・Iタウン」実現に向けて取り組み検討	ネットワーク型(上勝町の空き家とIターン者マッチング事業)、拠点型(庵住の里構想:農園付き住宅村)、中間型(勝浦町の市民農園 + 空き家紹介)などによる、A(アクティブシニア)・I(Iターン)タウンの実現に向けた取り組み方を検討した。 *「A・Iタウン」とは、地域外から流域への、青・壮年層のIターン(地元出身でない人の移住)、Uターン(地元出身者)、勇退後の元気な高齢者(アクティブシニア)の移住を促すための、住宅、農地、店舗・工房等を確保する取り組みを示す。	上勝町: マッチング以降の不動産実務、アフターフォロー等の体制づくり 勝浦町: 住民策定の市民農園プランを実施する適地さがし 「庵住の里づくり」: 20~30戸ほどを想定した面的な開発だけに、地元折衝、行政折衝、次の適地さがしなどが必要	【“空き家-Iターンマッチング”の取り組み】 行政では個別折衝以前の、移住希望者と受け入れ地域との相互理解、共通認識を促進 不動産契約では行政は第三者的立場を保ちながらトラブル予防の対応が必要 【農園付き住宅団地への取り組み】 地区の農地等保有者の発意が基本となる 市・町や地区での事業費負担が必要となる 入居者と地域とのふれあいやコミュニケーションを大切にする

“勝浦川すこやか交流圏”実現に向けた提案と、必要とされる取り組み（まとめ）

① “勝浦川すこやか交流圏”形成に向けた提案

“みなとまちづくり”の勢いにぎわいを、まちへ、上流へ

NPOこまつしまを中心に高校生など市民参加の輪も広がって、小松島みなと交流センターkocoloが、港の“人・もの交流、にぎわい拠点”として、確実に機能しつつある。港のにぎわいを、日赤新病院のまちとつなぐこと、さらには、海の交流と山・川の交流のクロスポイントとなることなど、すこやか交流圏の窓口としての活動が期待される。

「いやしのみち」を、流域のみちに

勝浦町において住民のみなさん中心で進めている「いやしのみち」づくりを、上流、下流へと延ばし、安心・快適に歩きながら健康づくりができる勝浦川流域遊歩道ネットワークとすることが期待される。

すこやかさを求める人を、交流→定住へと導く

上勝町では、棚田体験から棚田オーナーへとより密接な交流の段階に進み、ワーキングホリデーにも他県から予想以上の多数の参加があった。さらに、このような交流を定住につなげる仕組みも着実に整備されつつある。

また、勝浦町では、市民農園をきっかけとした都市との交流、定住促進がめざされている。

小松島市は、県都隣接、空港から40分圏という恵まれた条件にあり、高度医療、海・里・山の幸と環境にも恵まれているため、都市部からのIターン、元気な高齢者を迎えやすい都市といえる。

1市2町それぞれの特徴を活かし、すこやかな交流を進めつつ、定住を促すまちづくりが期待される。

光ファイバーを“すこやか交流”の動脈に

小松島市内では、民間事業者によって、光ファイバーケーブルテレビの高度情報通信基盤整備が着々と進んでいる。勝浦町、上勝町においても、町が国・県、民間等の協力も得ながら、光ファイバー網等の早期実現をめざしているところである。

これらの情報基盤が、在宅健康管理などの生活面、いどりや観光・交流などの仕事・事業面に積極的に活用されて、流域のすこやかさの動脈として機能することが期待される。

健康づくり運動を、流域の日常スタイルに

健康づくり教室の継続、開催場所を増やしていくことで、流域に住民の方が誰でも気軽に健康づくりを行える環境づくりを、住民参加によって進めていくことが重要である。住民参加による健康づくりを進める組織を立ち上げ、自分たちの健康づくりを自分たちで進めていくことが必要である。

環境がすこやかに、人もすこやかに成れるツアーの実現を

勝浦町と上勝町とで1泊2日ずつの「すこやかモニターツアー」を実施したが、“農村・農業体験”や“自然・森林体験”については、すでに充実したプログラムがあることがわかった。

今後は、ゼロ・ウェイスト等の環境保全体験を取り入れた「エコツーリズム」、人形文化・遍路体験等の「心のいやしツアー」等のプログラム化を図り、さらに、山・川・里・都市・海というフィールドを活用し、地産食材、山野草・薬草なども活かした食の工夫、運動・踊りなどの健康増進体験の充実などを進めれば、多彩で魅力的な文字通りの「すこやかツアー」が実現すると考えられる。

② “勝浦川すこやか交流圏”の具現化に向けて必要とされる取り組み

必要とされる取り組み	連携体制など
“すこやかツアー” & “すこやか食づくり” 宿泊施設等での既存体験プログラムの組み合わせ方、売り出し方などの充実をめざす すこやかに着目して地域産物・食材の活かし方、料理法、メニューなどを工夫する	民主導+行政支援 行政内事務局で、民によるツアー事業化検討
地域認証システムづくり 流域産物のブランド化をめざして、健康・安全や環境に配慮した産物生産や販売促進方を工夫する	民主導+行政支援 産直市連携などを公的制度化利用等で行政支援
「いやしのみち」流域ネットワーク 安心して歩ける流域遊歩道ネットワークをめざす	民主導+行政支援 行政内事務局で住民等の「まちづくり」検討・活動
「A(アケイブ シア)・I(イターン)タウン」づくり 都市部から流域への、若者や元気な高齢者のIターンを呼び込める住まいや農地の提供を目指す	民主導+行政支援 空き家・農地主とIターン者とのマッチング支援
光ファイバー網などの整備促進 流域全体でのテレビ視聴環境整備や、高速大容量のインターネット利用環境整備をめざす	行政主導+民協力 中・上流域の光ファイバーは行政で整備
いつでもどこでも健康づくり 住民のみなさんの健康づくりに対する意識向上と健康づくり活動の継続・強化に向けた推進体制づくりをめざす	行政主導+民協力 既存の運動教室を基本に、民協力でプログラム充実
すこやか交流圏づくりPR活動 より多くの方が“すこやか交流圏”について興味と関心を持ってくれることをめざす より多くの方が“すこやか交流”の取り組みに参加してくれることをめざす 流域外にも“すこやか交流圏”づくりに向けた活動を知らせて、流域への来訪者増をめざす	行政主導+民協力 1市2町での広報を基本に、可能な範囲で流域での交流・連携についても紹介

◆ 平成17年度以降の具体的活動

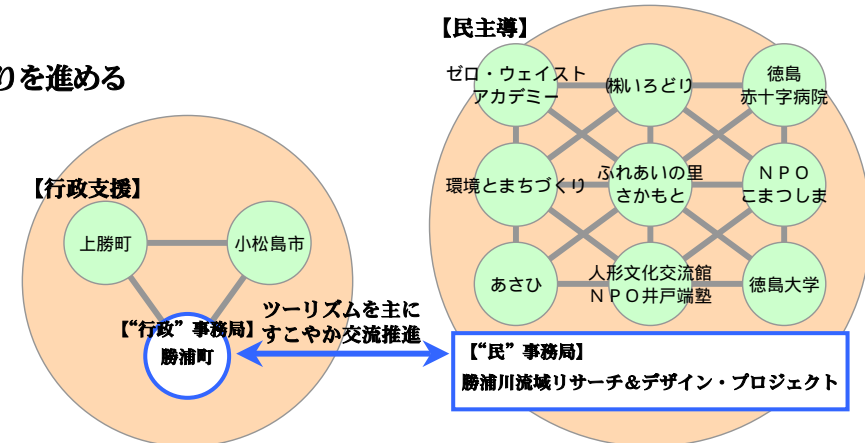
“すこやかツーリズム”事業化計画を作成

勝浦町の“ふれあいの里さかもと”や“人形文化交流館”を拠点とする、「人形文化のまち『心と体のいやしツーリズム』」の事業化計画をつくる活動の中で、流域全体での連携・交流の進め方や、「いやしのみち」活動の充実、すこやか食づくり、健康づくり教室プログラムなどの具体的な活動についても検討を行う。

ツーリズム事業をきっかけに “民主導+行政支援”の推進体制づくりを進める

勝浦町ではツーリズムの事業化に本格的に取り組もうとする動きがある。こうした展開をきっかけとして、勝浦町内のツーリズム事業事務局で、“すこやか交流圏”行政事務局的な機能も担ってもらうことが期待される。

ツーリズム事業を検討し活動する中で、下に示すような“民”との協働テーマを掘り起こし、早期に、“民”の事務局としての、「(仮称)勝浦川流域リサーチ&デザインプロジェクト」の発足をめざす。



※勝浦川流域リサーチ&デザイン・プロジェクトの役割
 モノづくり・まちづくり・地域づくり及びこれらのビジュアル戦略としてのデザイン研究、提案、地元活動起動支援 国・県等の補助制度、助成・支援策等の活用支援、コーディネート